



雪崩・地すべり 研究センターたより

年3回発行・第75号
2016. 11月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・トピックス（合同研究発表会、学会研究発表会、防災講演会、防災研修会、春日山城跡土砂崩落災害復旧についての検討会） ・研究紹介（土木技術資料） ・ニュートンのリンゴの木

トピックス

■合同研究発表会

7月13日に新潟県妙高市において、当センターの後援組織である雪崩・地すべり研究推進協議会と妙高地区治水砂防協会が主催する合同研究発表会が開催されました。



研究発表では、新潟県上越地域振興局妙高砂防事務所の山崎正道氏が「屋敷添地区雪崩対策事業について」、当センターからは石田所長が「地すべり災害と土木研究所の取り組み」、松下が「雪崩対策に関する土木研究所の取り組み」と題して、それぞれ発表が行われました。

■学会等研究発表会

表-1には当センターの職員が参加した7～11月に開催された学会等を、表-2には研究発表のタイトルをそれぞれ示しました。この期間に9件の学会等が開催され、17件の研究発表を行いました。

表-1 参加した学会等

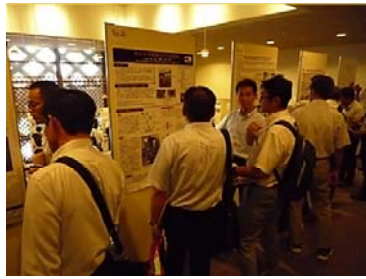
学会等	開催日	開催場所
平成28年度北陸地方整備局事業研究発表会	7月26～27日	新潟市
第55回日本地すべり学会研究発表会	8月22～25日	高知市
2016年度日本建築学会大会(九州)学術講演会	8月24～26日	福岡市
雪氷研究大会(2016・名古屋)	9月28日～10月2日	名古屋市
国際雪科学ワークショップ	10月3～7日	アメリカ合衆国コロラド州ブリッケンリッジ
日本気象学会2016年度秋季大会	10月26～28日	名古屋市
全国地すべりがけ崩れ対策協議会第70回研究発表大会	10月27～28日	鹿児島市
第16回日本雪工学会上信越支部研究発表会	11月11日	新潟県長岡市
第32回寒地技術シンポジウム	11月16～18日	札幌市

表-2 研究発表のタイトル

学会	タイトル	発表者
平成28年度北陸地方整備局事業研究発表会	雪崩対策施設の損傷とその要因の分類について	松下拓樹
第55回日本地すべり学会研究発表会	降雨に起因して発生した地すべりの到達範囲について	石田孝司
	溶存イオンデータの多変量解析による地すべり地の地下水流動調査	丸山清輝
	集水井内観察カメラの開発	金澤 瑛
2016年度日本建築学会大会(九州)学術講演会	雪温を考慮した積雪全層平均密度の推定について	松下拓樹
雪氷研究大会(2016・名古屋)	新積雪の密度と硬度の時間変化に関する現地観測	松下拓樹
	雪崩の速度変化と地形要因について—雪崩動態観測結果を基にした検討—	石田孝司
	雪崩対策施設の損傷とその要因となる現象	松下拓樹
	積雪の全層平均密度と雪温および積雪深との関係	松下拓樹
国際雪科学ワークショップ	Characteristics of snow avalanche release in forests during a heavy snowfall event	松下拓樹
日本気象学会2016年度秋季大会	2014年2月の大雪時の雪崩発生条件に関する一考察(4)	松下拓樹
	長野県乗鞍高原付近で発生した雨水	松下拓樹
全国地すべりがけ崩れ対策協議会第70回研究発表大会	降雨に起因して発生した地すべりの到達範囲について	金澤 瑛
	雪崩対策施設の損傷等の分類と変状レベルについて	松下拓樹
第16回日本雪工学会上信越支部研究発表会	温度条件を考慮した積雪全層平均密度の推定	松下拓樹
第32回寒地技術シンポジウム	南岸低気圧による降雪結晶弱層の密度と硬度の時間変化	松下拓樹
	雪崩規模推定のための連続体モデルにおけるパラメータの検討	石田孝司



地すべり学会



建築学会



雪氷研究大会



国際雪科学ワークショップ



■平成 28 年度防災講演会

防災講演会が、6月23日に新潟市で開催されました。この会は、NPO 法人新潟県砂防ボランティア協会、北陸地方防災エキスパート、新潟県治山ボランティアセンターの共催によるものです。講演会では、新潟地方気象台気象情報官の小谷内 浩氏による「気象変動を知って、これからの豪雨に備える」、新潟県土木部砂防課砂防係主査の落合 厚氏による「平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨にかかる砂防関係事業について」、当センターの石田所長による「近年の地すべり災害と対応について」の各講演が行われました。

■防災研修会 (妙高はねうまカレッジ)

妙高市では、市民の皆さんに生涯にわたって学ぶ楽しさを感じてもらえるよう「妙高はねうまカレッジ『まなびの杜』」を開校し、様々なテーマの講座を開催しています。その中の教養コースの一つである「地域に目を向けると…～「雪崩・地すべり」を学ぶ～」が、7月29日に当センターにおいて開催されました。当センターでは石田所長が、上越地域で発生した土砂災害、土砂災害の対策、土砂災害から命を守るためになどについて講義をしました。その後、構内施設見学として、研究施設や当センターで開発を進めている調査機器などを視察していただき、当センターが行っている研究内容について関心を持っていただけたと感じています。



■春日山城跡土砂崩落災害復旧についての検討会

10月3日に、新潟県上越市にある春日山城跡の土砂崩落災害復旧についての検討会が開催され、当センターの石田所長が出席し、現地指導を行いました。春日山城跡は、戦国武将上杉謙信の城跡として知られています。この災

害は、7月26～27日にかけての大雨で発生したものです。出席者は、当センターの石田所長の他、上越教育大学、新潟大学、新潟県、上越市の各関係者でした。

■研究紹介

土木研究所の技術情報誌「土木技術資料」の9月号と11月号に、当センターの研究結果が掲載されました。9月号の「積雪モデルを用いた湿雪雪崩の発生評価」は、当センターで検討してきた積雪モデルを活用した湿雪雪崩の発生評価方法の概要と試行結果を紹介したものです。また、11月号の「融雪地すべりの到達距離と発生箇所の特徴」は、融雪地すべりの事例を収集し、地すべり土塊の到達距離と発生した箇所の地形的特徴との関係について検討した結果を紹介したものです。



■ニュートンのリンゴの木

写真は、11月13日のリンゴの木の様子です。H23-24年の積雪による枝折れの影響が未だに続いているため、木に元気がなく花が咲かない状況が続いています。そこで、樹木医による、診断及び枝の不適切な切断部の切り戻しと防腐処理、穿孔虫駆除、骨格剪定などを行っていただきました。来年以降、たくさんりんごが実ることを期待しています。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載してありますのでご覧ください。

発行：国立研究開発法人 土木研究所 つくば中央研究所
 土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター
 住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
 TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: http://www.pwri.go.jp
 掲載内容は、現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により、内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。

